

フィリピン国  
家族計画・母子保健プロジェクト( )  
巡回指導調査団報告書

平成 10 年 10 月

国際協力事業団  
医療協力部

## 序 文

フィリピン国家族計画・母子保健プロジェクト(フェーズ2)は、1997年4月1日から5年間の協力期間において、リージョン の家族計画・母子保健活動の改善を目的として協力が開始されました。

このたび、協力期間1年4カ月あまりの時点でこれまでの活動を確認し、本プロジェクトにかかわる専門家とカウンターパートに必要な助言を提供し、また、本プロジェクト当初の目標を達成するために必要な事項を、フィリピン側関係者と協議するため、国際協力事業団は1998年8月25日から9月4日までの日程で、京都大学大学院医学研究科教授中原俊隆氏を団長として、巡回指導調査団を派遣しました。

本報告書は、上記調査団の調査結果を取りまとめたものです。ここに本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる謝意を表しますとともに、本プロジェクトの実施運営に対しまして、さらなるご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

1998年10月

国際協力事業団

医療協力部長 福原 毅文



バターン州保健局で歓迎を受ける調査団一行



同州保健局における会議



合同調整委員会にてニエト・リージョンIII保健局長



同委員会風景



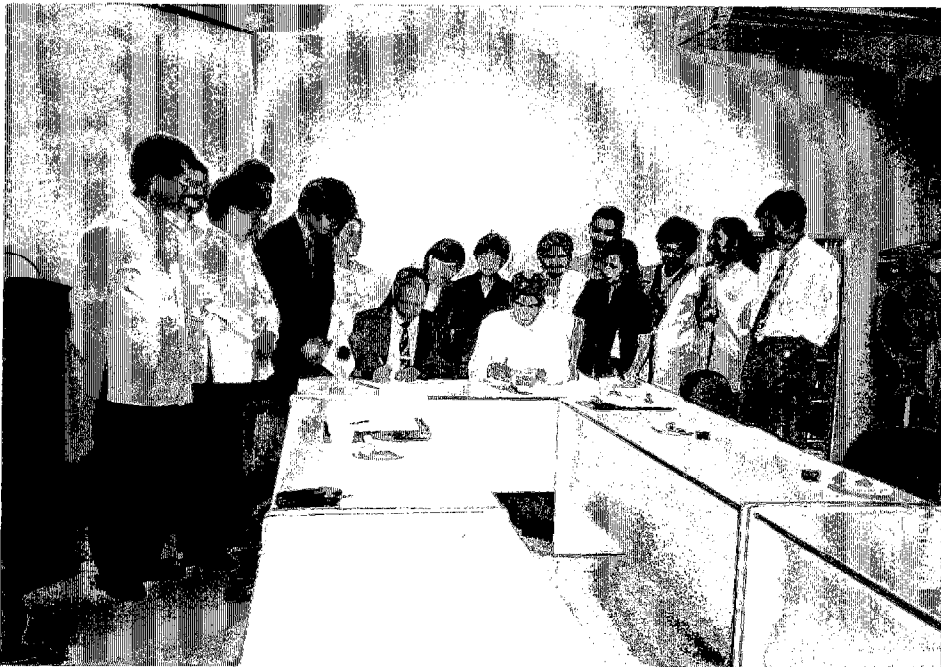
ブラカン州マロス町リプロダクティブヘルスクリニック



タラック州母子保健センター

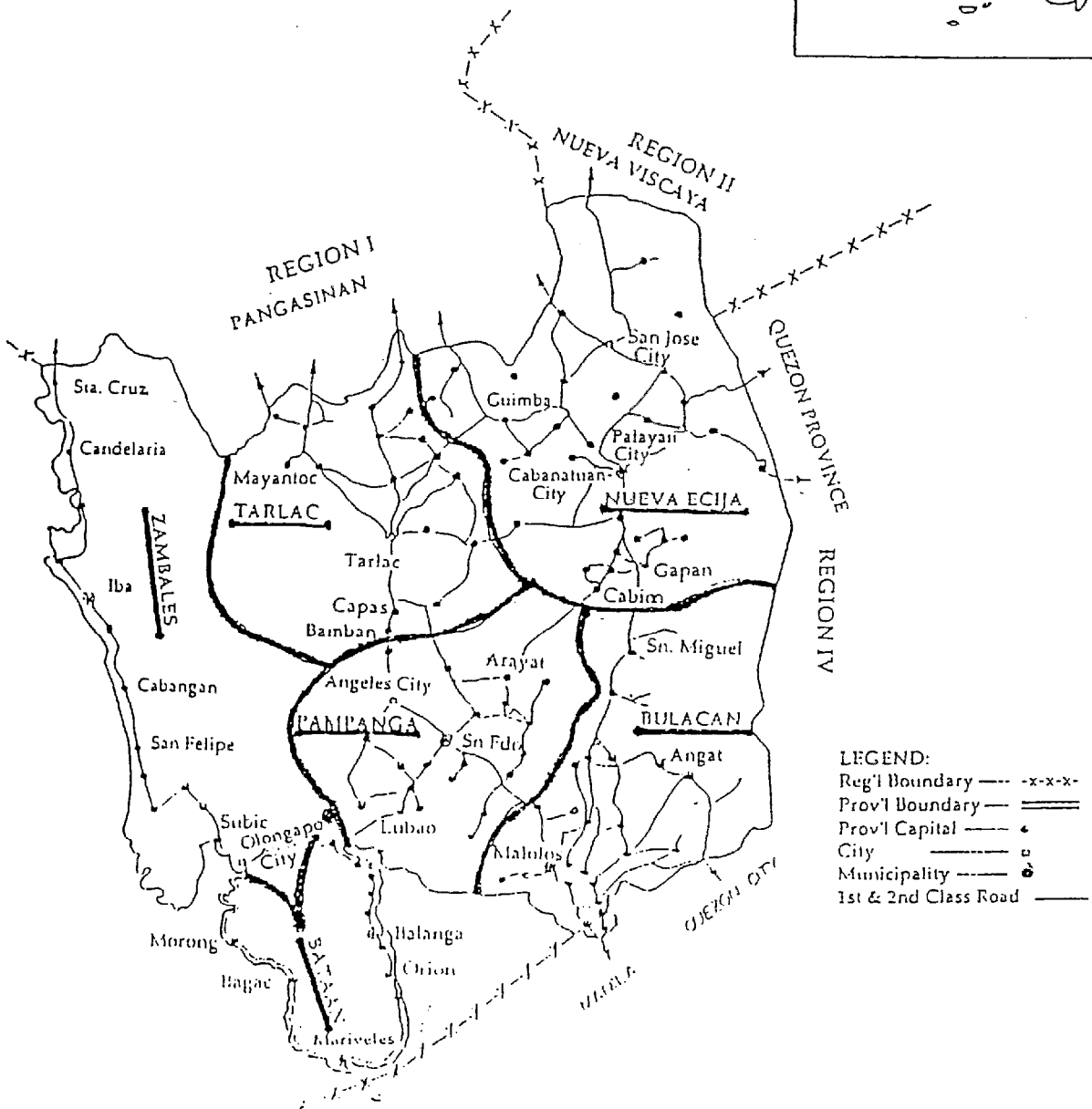
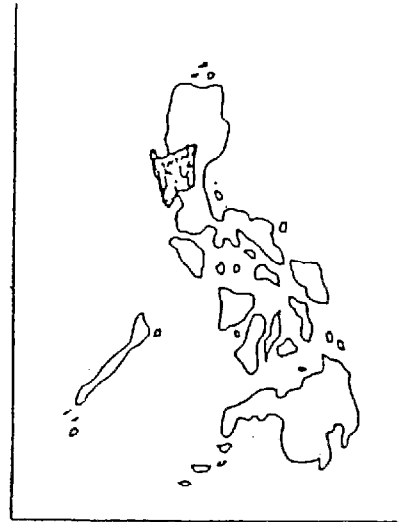


小学生対象健康教育人形劇視察



ミニッツ署名

# リジョンIII地図



略 語 表

AMDA	アジア医師連絡協議会	The Association of Medical Doctors for Asia
BB	協同薬局	Botika Binhi
BHS	村落保健支所	Barangay Health Station
BHW	村落保健員	Barangay Health Worker
DILG	内務自治省	Department of the Interior and Local Government
DOH	保健省	Department of Health
FP	家族計画	Family Planning
GII	地球規模問題	Global Issues Initiative
ICS	個人間伝達技法	Interpersonal Communication Skills
IEC	情報・教育・広報	Information, Education, Communication
IMR	乳児死亡率	Infant Mortality Rate
JHPIEGO	ジョンズ・ホプキンス・大学 リプロダクティブヘルス国際教育プログラム	A Johns Hopkins Program for International Education in Reproductive Health
JHU/PCS	ジョンズ・ホプキンス・大学 人口情報サービス・プログラム	Johns Hopkins University Population Communication Services
JOCV	青年海外協力隊	Japan Overseas Cooperation Volunteers
JOICFP	家族計画国際協力財団	Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning
LGU	地方自治体	Local Government Unit
LPP	地方保健行政強化計画	LGU Performance Program
MCH	母子保健	Maternal and Child Health
MMCE	保健省マルチ・メディア・センター	Multi-Media Center of Excellence
NEDA	国家経済開発庁	National Economic and Development Authority
NFP	家族計画自然法	Natural Family Planning
NGO	非政府組織	Non Governmental Organization
NID	全国予防接種の日	National Immunization Day
OIC	代行	Officer in charge
OPHS	保健省公衆衛生局	Office of Public Health Services
PFNFP	家族計画自然法連盟	Philippine Federation for Natural Family Planning
PHO	州保健局長	Provincial Health Officer
PNGOC	フィリピン人口健康NGO評議会	Philippine NGO Council on Population, Health and Welfare
POPCOM	人口委員会	Commission on Population
PRRM	フィリピン農村復興運動	Philippine Rural Reconstruction Movement
RHO	保健省リージョン保健局	Regional Health Office
RHU	保健所	Rural Health Unit
SMBK	健康の種協同体	Samahang Manggagawa ng Binhing Kalusugan
TFR	合計特殊出生率	Total Fertility Rate
TPH	クラック州病院	Tarlac Provincial Hospital
TV 99	母親テレビ	TV 99
UNFPA	国連人口基金	United Nations Population Fund
UPPI	フィリピン大学人口研究所	University of the Philippines Population Institute
USAID	米国国際開発庁	United States Agency for International Development



# 目 次

序 文  
写 真  
地 図  
略語表

1 .巡回指導調査団派遣 .....	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的 .....	1
1 - 2 調査団の構成 .....	1
1 - 3 調査日程 .....	2
1 - 4 主要面談者 .....	3
2. 総 括 .....	5
3. プロジェクトの進捗状況、諸問題と指導内容 .....	6
3 - 1 公衆衛生部門 .....	6
3 - 2 地域保健部門 .....	8
4. 協議結果 .....	9
5. 調査団所見 .....	13
附属資料	
ミニッツ .....	17
1997 年度プロジェクト活動報告 .....	24
花田チーフアドバイザー報告 .....	58
田口専門家報告 ( IEC ) .....	71
岩永専門家報告 ( 家族計画・母子保健 ) .....	76
小村専門家報告 ( 母子保健 ) .....	80
佐藤専門家報告 ( WID / 啓蒙普及 ) .....	94
フィリピンにおける家族計画・母子保健の概況 .....	96
PDM ( 含無償資金協力 ) .....	103

⑩	プロジェクト概要表	105
⑪	プロジェクト総括表	107
⑫	供与機材実績表	111
⑬	研修員受入れ実績表	114
⑭	草の根展開支援事業実績表	115
⑮	草の根無償資金協力事業実績表(側面支援)	116
⑯	プロジェクト訪問者リスト	117
⑰	第三行政区統計資料	119
⑱	第三行政区の人口学的特性(鈴木短期専門家報告書)	120
⑲	保健省本省組織図	132
⑳	保健省リージョンⅢ組織図	133
㉑	保健省および第三行政区カウンターパート・リスト	134
㉒	プロジェクト・NGOトラック一覧表(活動概要等)	139
㉓	新政権下における保健政策	145

# 1. 巡回指導調査団派遣

## 1 - 1 調査団派遣の経緯と目的

フィリピン共和国(以下、フィリピン)の乳児死亡率・妊産婦死亡率等の健康指標はアセアンのなかでも中位～低位に位置しており、人口増加率も人間開発中位国の平均値を大きく上回る水準にある。このようななか、わが国はフィリピンに対し、1992年4月から5年間の協力期間で、ルソン島中部のタラック州において家族計画・母子保健活動の改善を目的にプロジェクト方式技術協力を実施した。その結果、家族計画・母子保健サービスシステムの向上、地域住民の参加による地域保健活動の強化、研修・視聴覚教材を通じた保健サービス従事者の能力向上等の成果が得られた。そこで、フィリピン政府は、タラック州において開発されたモデルの成果を、タラック州が属するリージョン(ルソン島中部)全体に波及させるための新たな協力を要請してきた。

これを受けてわが国は、1997年4月から5年間にわたりプロジェクト方式技術協力を実施することとした。今回は、プロジェクト開始後1年4カ月が経過したことから、討議議事録(R/D)に添付されているプロジェクトデザインマトリックス(PDM)に基づいてプロジェクトの活動および成果の進捗状況と問題点を把握するとともに、必要があれば修正を行い、あわせて今後の活動計画について先方と協議することを目的として、巡回指導調査団を派遣するものである。

## 1 - 2 調査団の構成

	担当	氏名	所属
団長	総括	中原俊隆	京都大学大学院医学研究科社会予防医学講座公衆衛生学分野教授
団員	地域保健	菅波 茂	医療法人アスカ会 理事長
団員	協力計画	伊藤賢一	国際協力事業団医療協力部医療協力第一課職員

1-3 調査日程

日順	月 日	曜日	移動および業務
1	8月25日	火	13:10 JL741便にてマニラ着 (成田発、中原団長、伊藤団員) 13:35 TG621便にてマニラ着 (関空発、菅波団員) 16:00 保健省表敬
2	8月26日	水	07:20 マニラからバターン州へ移動 08:00 バターン州保健局・バターン州知事表敬 09:00 バターン州保健局職員との会議 10:30 バターン州アプカイ市長表敬 11:00 RHU Abucay視察・調査 13:30 RHU Orani視察・調査 15:00 バグク小学校にて人形劇 (健康教育) 視察
3	8月27日	木	09:00 バターン州からサンフェルナドへ移動 13:30 保健省リージョンⅢ保健局長表敬 14:30 調査団・専門家の打合せ会議
4	8月28日	金	09:00 合同調整委員会 (終日) (出席者: 保健省次官、リージョンⅢの6名の州保健局長・幹部、国家経済開発庁・人口委員会・内務自治省リージョン幹部およびNGO代表ほか)
5	8月29日	土	09:30 ブラカン州レジナカルメリ大学表敬 10:30 ブラカン州マロロス町リプロダクティブヘルスクリニック視察 11:30 ブラカン州プラリデル町コミュニティ病院視察 (NGOマザー・リタ・バルセロ地域生計団との連携プログラム) 14:00 ブラカン州サンイルデフォンソ町コミュニティ病院視察 (NGOフィリピン小児病院との連携プログラム)
6	8月30日	日	午前 資料整理 12:00 フロントライン計画会議 (青年海外協力隊員との情報交換)
7	8月31日	月	08:00 アンヘレス市よりバギオ市へ移動 (中原団長) アンヘレス市よりタラック市へ移動 (伊藤団員) 11:00 タラック州保健局長表敬 (伊藤団員) 14:00 BHSおよび地域保健活動視察 (伊藤団員) 15:30 バギオ総合病院長表敬 (中原団長) 16:30 TG622便にてマニラ発 (関空着、菅波団員) 19:00 ビデオ上映会視察 (伊藤団員)
8	9月1日	火	10:00 Under 5 Clinic プログラム視察 (中原団長) ; 終日 10:00 人形劇視察 (伊藤団員) 14:00 RHU視察
9	9月2日	水	バギオ市よりマニラへ移動 (中原団長) タラック市よりマニラへ移動 (伊藤団員) 15:30 エイズ対策プロジェクトの視察/協議
10	9月3日	木	10:00 保健省との協議 ミニッツの署名・交換 17:00 JICAフィリピン事務所報告
11	9月4日	金	10:30 日本大使館報告 14:30 JL742便にてマニラ発 (成田着、中原団長、伊藤団員)

## 1 - 4 主要面談者

### (1) フィリピン側関係者

Dr. Antonio S. Lopez	Undersecretary, Office for Public Health Services, Department of Health (DOH)
Dr. Ethelyn P. Nieto	Director, Regional Health Office III, DOH
Dr. Ricardo P. Ramos	Provincial Health Officer II, Tarlac Provincial Health Office, DOH
Dr. Rolando S. Banzon	Provincial Health Officer II, Bataan Provincial Health Office, DOH
Dr. Bienvenido A. De Guzman	Provincial Health Officer II, Nueva Ecija Provincial Health Office, DOH
Dr. Eduardo Valencia	Provincial Health Officer II, Bulacan Provincial Health Office, DOH
Dr. Coronado V. Baltazar	Officer-In-Charge, Pampanga Provincial Health Office, DOH
Dr. Marcial S. Terrado	Regional Director, POPCOM
Ms. Lynnette Y. Bautista	Director III, Region III, NEDA
Ms. Dolores Tizon	Dean, College of Allied Medical Courses, University of Regina Carmeli
Ms. Nieves P. Garcia	President, Botika Binhi, Tarlac Federation
Ms. Cesar U. Calalang	President, Samahang Lakas ng Kabataan
Ms. Rosemarie J. Herrera	Executive Director, Nutriline
Dr. Luz Revita Cruz	Head, Community Health & Development Dept., Children's Medical Center, Philippines
Ms. Randy N. Dacanay	Branch Manager, Bataan Province, Philippine Rural Reconstruction Movement

### (2) 日本側関係者

福田 光	在フィリピン日本大使館二等書記官
後藤 洋	JICA フィリピン事務所長
黒柳 俊之	JICA フィリピン事務所次長
永井 真希	JICA フィリピン事務所員

花田 恭	プロジェクトチーフアドバイザー
碓 賢治	プロジェクト調整員
田口 明男	プロジェクト専門家( Information, Education, Communication )
岩永 資隆	プロジェクト専門家( 家族計画・母子保健 )
小村 陽子	プロジェクト専門家( 母子保健 )
佐藤 祥子	プロジェクト専門家( Women in Development / 啓蒙普及 )

## 2. 総 括

1998年8月25日から9月4日まで、マニラ市、バギオ市およびリージョン 地域を訪問し、フェーズ2に入った家族計画・母子保健プロジェクトの現状の視察、カウンターパートとの懇談、フィリピン保健省代表者とのミニッツの署名・交換等を実施した。

本プロジェクトの特徴は、家族計画・母子保健を中核とした地域保健の住民自身による向上活動にあるが、フェーズ2においては、フェーズ1におけるタラック州における成果を維持、発展させつつ、それをリージョン 地域全体に広げていくことが課題である。そのため、フェーズ1におけるタラック州保健当局の協力を凌駕するリージョン におけるフィリピン側の積極的な協力および活動がぜひとも必要であり、また、その協力を引き出すためには、日本側における積極姿勢を提示することが重要になる。

現在、日本側においては、2州ずつ担当する長期専門家3人が3カ所に別れてオフィスをもち活動する「ゾーン・ディフェンス」方式が実施され、それを統括するリーダーはリージョン の首都に本拠を構え、秘書として人口委員会の旧有メンバーを雇用し、また保健省には保健省内に多数の人脈をもつ業務調整員および長期専門家が2カ所のオフィスをもって活動するという、きわめて積極的かつ効率的なプロジェクト実施体制を整えており、これによりタラック州における成果をリージョン 内に拡大発展させるという目標は名実ともに達成が見込める体制となっており、さらに青年海外協力隊隊員による草の根レベルの活動がそれを補助している。また、無償資金協力として各州立病院母子保健センター、RHU、BHSの新築等がすでに決定されており、フィリピン側の活動意欲を高めている。この日本側の動きに呼応して、リージョン 保健局長や各州保健局長においてもプロジェクトの展開に積極的であり、ことにバターン州では今回の訪問中に保健局内に長期専門家のオフィスが開設されるなど、タラック州を上回る体制の樹立をめざす意気込みが感じられる。今後は、このような双方の活動を発展させるとともに、母子保健センターにアンダーファイブクリニック活動を定着させるように指導していくべきであると考え。また、双方の国民の参加やNGOとの連携など、他のODAスキームによる活動も発展させていくことが望まれる。

本プロジェクトは、家族計画・母子保健を中核に地域保健全体の向上を視野に入れた活動(TV 99、Teatro 99、ポティカ・ピンヒ、バランガイヘルスワーカーや助産婦の研修、NGOとの連携など)により、他に誇り得る成果をあげていると考えられるため、その経過や手法、評価等について学術的な報告を行い、そのノウハウの蓄積および公表を行っていくことが重要である。

### 3. プロジェクトの進捗状況、諸問題と指導内容

#### 3 - 1 公衆衛生部門

##### (1) 地域協同薬局活動(ボティカ・ビンヒ)

薬品の供給が遅れている地域に保険の考え方により基本的薬品の供給を図ろうとする活動で、住民は少額の保険料的な経費を毎月支払い、必要に応じて地域の住民によって運営される薬店から割引価格で薬品を購入できるとするものである。青年海外協力隊隊員によりその活動の地方への普及がみられるなど、すでに各地のバランガイにおいて実施されている。多くの場合、その運営は順調で、余剰金の使途について議論される段階に達している例もみられ、また、他州のバランガイに対してタラック州住民が指導を行っており、タラック州においては他の模範たり得る状況に達している。しかし、ブラカン州では住民の研修を行ってもその活動の定着がみられないなど、地域差もみられており、その要因に関する調査研究が重要である。

##### (2) 母子健康手帳の導入活動

妊娠の経過、子供の成長発育をモニターするための廉価版母子健康手帳について、その活用をさらに推進すべきである。

##### (3) 家族計画活動

宗教的な制約があり、自然家族計画法の普及活動をサポートし、さらに人口活動員や助産婦によるフィールドワークを促進するための IEC 教材の作成、普及を推進すべきである。

##### (4) 母子保健キャンペーンおよび IEC 活動

家族計画・母子保健キャンペーンおよび IEC 活動としての TV 99 活動および Teatro 99 活動は住民教育の手段としてきわめて有効である。ことに、Teatro 99 活動は住民自身の創意工夫による人形劇であり、その実施は住民自身の積極的参加が基本であるため、住民の能動的な健康教育活動として高く評価されるものである。住民参加型の健康教育活動はきわめて高い効果が期待されるため積極的に推進されるべきであり、一方ではその効果を調べるための調査研究活動を実施し、その結果を学術的に公表するなどにより、他への普及を図るべきであろう。

##### (5) IEC 教材の開発・普及

家族計画・母子保健の知識・情報を効果的かつタイムリーに提供するため、IEC 教材の開発



が行われてきているが、その蓄積も多くなってきており、その内容も評価できるものが多々あるため、これらの教材を UNFPA など他のドナーに供与するなどの方策をとることにより、さらにその普及を図ることが重要である。

#### (6) 青年海外協力隊との協力

本プロジェクトでは、青年海外協力隊との協力を当初から掲げており、すでに良好な協力関係が維持されている。フェーズ2においても、すでに青年海外協力隊隊員の協力により住民の教育活動等が進んでおり、その活動は本プロジェクトと相互に補完しあうものであり、青年海外協力隊隊員の活動を積極的にサポートし、さらに良好な協力関係を維持していくことが重要である。

#### (7) ODA スキームの積極的活用

本プロジェクトは、従来から ODA の各種スキーム(青年海外協力隊、無償資金協力、UNFPA 等との連携、草の根無償資金協力等)を積極的に取り込んできたことに特徴があるが、今後もさらにさまざまな ODA スキームを統合したパッケージ協力や地方自治体や NGO を通じた国民参加型の協力等を推進すべきである。

#### (8) 母子保健センターの建設、RHU・BHS の新築

母子保健センターは、母子に関する相談や健康教育活動等を含む基本的なサービスを総合的に供給するものであり、州立病院に併設されるのが基本となっている。タラック州では、妊娠の経過や子供の成長のモニタリング等を実施する場として、また助産婦の教育や第一線のバランガイヘルスワーカーの知識および技術の向上を図る活動、栄養教育活動等に利用され、すでにカウンターパート側の活動として定着している。母子保健センターは目に見えるプロジェクト活動としてきわめて重要であり、フェーズ2においては各州立病院における整備が無償資金協力により実現することとなっている。

母子保健センターでの活動要員の研修に、バギオ市に所在するアンダーファイブクリニックの果たす役割は大きいと考えられる。すなわち、母子保健センターの活動の基本は、乳幼児の発育・発達のフォローであり、また母乳育児の推進、適切な離乳食指導や家族計画指導などであり、当該施設ではその模範となり得る活動がすでにフィリピン側の努力により完成し、かなりの歴史をもっている。各州立病院における母子保健センターの活動にアンダーファイブクリニックのノウハウを生かすことが重要であろう。

RHU や BHS の新築は、目に見える援助としてきわめて重要であり、積極的な推進が望まれる。

### (9) 学術的な報告の積極的実施

本プロジェクトは、地域レベルでのソフトウェアに重点を置いた国際協力技術の開発（TV 99、Teatro 99、ボティカ・ピンヒ、バランガイヘルスワーカーや助産婦の研修、NGO との連携など）という観点から成功を収めつつあると考えられる。本プロジェクトは、さらに地域における草の根レベルの保健活動のソフトウェアの創出に意識して取り組むべきであると考えられる。本プロジェクトの成果は、国際協力研究論文として、積極的に公衆衛生関係学術誌や国際協力関係学術誌に投稿し、国際協力のノウハウの蓄積に貢献し、国際協力に携わる人々と知識・経験を共有するようにすることが望まれる。

## 3 - 2 地域保健部門

本プロジェクトの特徴は以下の3点にあり、非常に効果的な協力を行っていると考えられる。

### (1) 国民参加型の協力

フィリピンはNGOの活動が活発で、いわばNGOの先進国ともいえる。ラモス前大統領も積極的に推進しており、フィリピン側での国民参加型体制は構築されつつあり、NGOが政治的に認められていることは、本プロジェクトの実施上有益なことである。わが国側からみれば、広島県との協力（研修員受入れなど）が進んでおり、広島県と私立レジーナカルメリ大学の連携が実現しつつある。日本の自治体・現地NGOの連携という画期的な協力が期待され、本プロジェクトの成果のひとつとして誇るべき実績となろう。

### (2) ODAスキームのパッケージ化

本プロジェクトはプロジェクト方式技術協力のみならず、無償資金協力、青年海外協力隊、人口家族計画特別機材供与（UNFPA連携およびフロントライン計画）、草の根無償資金協力、開発福祉支援などさまざまなスキームを用いてリージョンに協力を展開しており、それらが有機的に結びつくことにより大きな成果をあげている。本プロジェクトはよき先例として、今後の協力の参考となるであろう。

### (3) 南々協力の拠点

本プロジェクトで行っている協同薬局事業は、単に資金を回収して回転させているだけでなく、運営のノウハウを研修して管理がしっかり行われている点に成功の鍵がある。他国プロジェクト等で同様の取り組みをしている案件に、こうした技術の移転を行うことは、南々協力を推進することにもなり、積極的に進めていくことを期待したい。

## 4. 協議結果

協議結果はミニッツのとおりである。以下ミニッツの要約を記す。

### A. これまでの活動の進捗状況

#### (1) 準備活動：バターン州プロジェクト事務所の開設

1998年7月31日にバターン州バラंगाのプロジェクト事務所を開設した。

#### (2) 調査・モニタリング・評価活動について

##### (2-1) 地域保健局における各州のデータベースの構築

州のデータベースをつくるためのデータ収集が始まった。このベースラインデータはプロジェクトのモニタリング評価活動を行うにあたって不可欠な投入となろう。

##### (2-2) TV 99(ビデオ上映)およびTeatro 99(人形劇)の評価研究の実施

上記活動の評価研究が完了した。

#### (3) 保健医療従事者に対する研修/再研修の実施

##### (3-1) 家族計画・母子保健およびIEC分野でのカウンターパート研修

##### (3-2) 情報伝達技術、母子保健再教育コース、乳幼児保健プログラムに関する研修

##### (3-3) 二国間技術交換および域内技術交換による情報交換

#### (4) 施設/機材の向上

地域保健所(RHU)・村落保健所(BHS)に対する医療機材および州保健局・地域保健局・保健省健康教育課に対するIEC機材の供与

#### (5) 住民参加による地域保健活動の実施

##### (5-1) 地域薬剤保険プログラム

ザンバレス州、パンパンガ州、ブラカン州に拡大した。

##### (5-2) 広報活動の実施

###### (5-2-1) TV 99：タラック州における定期ビデオ上映の実施

###### (5-2-2) Teatro 99：学校や地域における人形劇

(6) IEC 教材の開発、制作、配布

(6 - 1) 印刷物の開発・制作

1998 年カレンダー、バランガイヘルスワーカー用母子保健マニュアル、母子健康手帳、ヘルスライン雑誌、家族計画・母子保健ミニライブラリ

(6 - 2) ビデオ教材の制作

思春期ビデオ、デング熱に関する TV 99 シリーズ、人形劇およびタラック母子保健センターのドキュメンタリービデオ

(7) 日本の他の ODA スキームによる地方自治体・NGO に対する技術協力の実施

(7 - 1) 青年海外協力隊

(7 - 2) リージョン に対する無償資金協力

(7 - 3) UNFPA 連携によるマルチバイ協力

(7 - 4) 草の根無償資金協力

B. 今後の活動計画

(1) 調査・モニタリング・評価活動

調査・モニタリング・評価活動の結果から、各州のデータを定期的に更新する

(2) 保健医療従事者に対する研修 / 再研修の実施

(2 - 1) バランガイヘルスワーカーや助産婦の能力向上プログラムの実施

(2 - 2) リージョン 内の教育機関の活用( プラカン州マロロスのレジナカルメリ大学、ヌエバエシハ州カバナツアンのウエスレヤン大学 )

(3) 施設 / 機材の向上

保健医療従事者の活動に必要な医療機材および IEC 機材の供与

(4) 住民参加活動

地域保健活動を実施するためより多くの NGO との連携

(5) IEC 教材の開発、制作、配布

保健省健康教育課と共同して印刷物・ビデオ教材の開発を継続する

(5 - 1) バランガイヘルスワーカー用母子保健マニュアル

研修教材・参考書としてのマニュアル

(5 - 2) 母子健康手帳

保健施設での改訂版母子健康手帳のパイロットテスト

(5 - 3) RHU に対する母子保健ミニライブラリの配布

(5 - 4) 思春期ビデオパッケージの開発

(5 - 5) IEC 教材の配布のため新しいマスメディアチャンネルの開発( 学生や地域の集会など)、および活用

C . 今後の新しい方向性

(1) NGO や住民組織を通じた地域保健パートナーシップの拡大・強化

草の根レベルでの地域保健活動を進めるために NGO や住民組織との連携を進める努力をしていく。NGO 路線の確立は、さまざまな NGO や住民組織との連携をめざすものであるが、この方向を進める一歩である。プロジェクトは保健省、地方自治体、NGO、住民組織のさまざまな保健医療従事者の技術交換を進め、地域保健の発展という共通の目標を達成するため効果的な協力を行う。

(2) リージョン におけるパッケージ協力の推進

保健省が本プロジェクトの要請を行った当初、日本政府との協力のモデル地域としてのリージョン の開発という点を配慮した。JICA はすでにさまざまなスキームを用いて協力を始めており、リージョン の開発プログラムのマスタープランを準備するにあたって不可欠な役割を果たしていたという点で、中央ルソン島をモデル地域として選んだのは理にかなったものだった。プロジェクトはリージョン でさまざまな日本の ODA のスキームを統合して1つのパッケージとしての協力を進める。これはさまざまなスキームの補完性を高め、リージョン 内の家族計画・母子保健の状況の改善を追求するため、限りある援助資源の効果を最大限に高めるものである。プロジェクト方式技術協力のほか、このパッケージには次のものが含まれる。

- a . 青年海外協力隊：フロントライン計画の実施
- b . 無償資金協力：地域保健所施設・機材改善計画
- c . 草の根無償資金協力

プロジェクトは次の資金の申請も行っており、このパッケージに含まれるであろう。

- d . 開発福祉支援事業
- e . 子供の健康無償資金協力

(3) 地方自治体・NGO を通じた国民参加型協力の推進

- a .広島県の海外技術研修事業
- b .岡山県加茂川町国際協力機関の訪問による技術交換

(4) 国際機関との連携

- a .UNFPA
- b .USAID

## 5 .調査団所見

### (1)プロジェクトの進捗状況について

R/D に添付されている PDM に基づき活動の進捗状況を調査したが、住民参加活動、さまざまな地域保健の研修活動、IEC 活動等が各州に着実に普及しており、州それぞれが主体的に取り組んで活動が展開されているとの印象を受けた。保健省ではトップレベルでの人事異動が大幅になされたものの、プロジェクトにかかわるカウンターパートは大きな変動がなく、州保健局レベルで若干の異動があったものの、プロジェクト活動の展開にはほぼ支障がないものと思われた。地域展開においては、フェーズ1においてタラック州で得られた成果が各州の特徴やニーズに合わせて波及され(R/D で謳われている "echo effect" )、首尾よく住民組織や NGO を巻き込んで地域に密着した活動が行われていた。

### (2)専門家の配置と各州の活動について

7月1日にバターン州事務所が開設したことに伴い、専門家の配置体制が変わり、マニラ事務所、保健省健康教育課、アンヘレス事務所、バターン事務所、タラック事務所と5つの事務所を構え、各活動で重要な拠点および地域展開に不可欠な拠点を押さえることにより、よりニーズに密着した活動が可能となった。リージョン 地域保健局および各州保健局を軸にしながら末端レベルのサービス向上を図るプロジェクトの狙いがうまく反映されていくものと思われた。特に各州の技術交換のみならず、バギオのアンダーファイブクリニックとの連携で乳幼児保健の強化もあわせて図っていく点は、プロジェクトの新しい目玉として期待される。

### (3)パッケージ協力について

先方のイニシアティブやニーズをとらえて、さまざまな ODA のスキームを用いた活動、具体的には無償資金協力、青年海外協力隊を巻き込んだのフロントライン計画、UNFPA との連携による人口家族計画特別機材供与、草の根無償資金協力等が有効に組み合わせられ、効果的な活動が展開されていた。特筆すべきは、これらの協力が先方のニーズに沿ってなされ、ボトムアップの視点で行われている点であり、いわゆるパッケージ協力のなかでも模範事業たり得るものと考えられる。ただし、そのオペレーションにおいては十分な先方との意思疎通とフォローアップが重要であるが、現時点で非常にうまくそれがなされていることは確認された。

### (4)国民参加型協力について

ブラカン州と広島県、バターン州と岡山県加茂川町、および各地における AMDA との連携による事業展開は、日本・フィリピン双方の地方自治体や NGO を巻き込んだ、いわゆる国民参加

型の協力を推進するものとして、今後の協力にいつその弾みをつけるものである。すでにプロジェクトでは地域の特性を生かしてさまざまな現地 NGO と連携した住民参加型の草の根活動を展開している。開発福祉支援事業との連携によりますますこの傾向が強まり、地方自治体の家族計画・母子保健活動の強化および NGO を活用した地域密着型の協力が車輪の両輪となって発展していくことが期待される。

#### (5) 各活動の成果の評価

1997 年すでに世界健康教育学会でビデオ上映会による健康教育活動が発表され、一定の評価を受けているが、今後も各事業の成果を形にして残すため、このような一種の評価活動を行っていくことが期待される。プロジェクトそのものの事業評価とともに、各プログラムごとの評価を学術的なモデルを用いながら行うことは有益であると考えられる。